連載

サメってどんな生きもの？ 下

今年も海水浴シーズンがやってきました。鳥取市では、行政機関・海水浴場関係者などが、みなさんに安全で快適な海水浴を楽しんでいただくため、防護ネットの設置・監視態勢の強化などサメ対策を万全に行っています。

今回も、前号に続き、「シュモクザメの生態」について水産総合研究センター西海区水産研究所の矢野和成博士のお話を紹介します。

シュモクザメの生態について語る矢野博士

サメ類の中でもとても特異的な形態をしている種類として、シュモクザメ類が挙げられます。頭がカナヅチのように左右に張り出し、眼はその先端部分にあり、見た目には恐怖心をあおられる種類です。

日本近海に生息するシュモクザメ類は、アカシュモクザメ、シロシュモクザメ、ヒラシュモクザメの三種。このうち、ヒラシュモクザメが最も大きく全長五メートルを越えますが、他の二種は四メートルぐらいです。この三種は、頭の形の違いなどで容易に区別することができます。また、頭の大きさである程度の成熟段階が推定できます。昨年夏、県東部の沿岸で発見された種類は、アカシュモクザメで、頭の形から小型の未成魚であることが推察できます。

アカシュモクザメは、日本近海では普通に見られる種類です。しかし、日本の沿岸域での漁獲記録は多いものの、移動・回遊に関する情報はほとんどありません。沖縄県の与那国島や小笠原諸島父島などで、アカシュモクザメの群れが確認されています。そのため与那国島では、多くのダイバーがこの島を訪れてシュモクザメウォッチングを楽しんでいます。

実は、以前から山陰地方の沿岸でも夏にシュモクザメ類が発見されることは知られていました。昨年シュモクザメが多く発見されたのは、その数が増えたのではなく、回遊経路がやや沿岸寄りであったことが原因だと思われます。

アカシュモクザメは、魚類、イカ類、エビ・カニ類などを主なエサとしています。そのため、口や歯は体の大きさの割には小さくなっています。このようなことからも、シュモクザメは人間に危害を加えるサメ類ではないことがわかります。

サメ類の人間に対する危険度は種類、大きさ、生態の違いにより大きく異なります。これらの点から考えると、山陰地方沿岸に出現するアカシュモクザメの危険度は非常に低いものと考えられます。

矢野和成（かずなり） 博士

国際自然保護合種保存委員会
サメ類専門家委員会委員
アメリカ板鰓（えら）類学会サメ類保護委員会委員
東京大学総合研究博物館客員研究員
水産学博士